

「お父さんが2人いるってこと？」
 と思っただ人もいるのでは。
答えは、「執刀医がお母さん」
 最近では女性のお医者さんも増えてい
 るので、引っかかりななかった人も多
 いとは思いますが、「お医者さんは男性」
 と先入観を持ってしまっこともありま
 すよね。

**みんなの考え方が変わると、
 行動も変わる**
 「男性は仕事」「女性は家事」とい
 うような性別による固定的な役割分担
 意識にとらわれず、男女共同参画社会
 の実現のために、まず最初にすべきこ
 とが「意識改革」です。
 それでは、「意識改革」を考える前に、
 突然ですが、次のクイズの答えを考え
 てみてください。
 お父さんが、息子さんとドラ
 イブにでかけました。その帰り
 に運悪く交通事故にあっしま
 いました。幸いお父さんは軽傷
 でしたが、息子さんは重体。救
 急車で運ばれ、病院で手術を受
 けることになりました。
 とこころが、執刀医が「自分の
 子どもの手術は冷静にできない」
 と言いました。
 さて、この3人の関係は？



↑(株)ディー・カンパニー常務取締役の辻本紀子さん。
 5月12日の知事視察では、知事に鹿の飼育について丁寧に説明

あなたの
 男女共同参画度
 チェック

- あまり悩まずに直感でお答えください。
 「思う」と思ったものをチェックしてください。
- 仕事には男性に向いているものと、女性に向いているものがある。
 - 出産に伴う長期休暇が考えられるので、女性には仕事を期待しにくい。
 - 家事に支障のない範囲なら女性が働いたり趣味の活動をするのはいいと思う。
 - 男性が家事や育児をしている姿を見ると「尻に敷かれている」と思う。
 - ご近所のまとめ役は男性の方がうまくいく。
 - 地域の行事は、実行委員が男性、慰労会などの裏方のセッティングは女性に任せられた方がうまくいく。
 - 理数系分野はどちらかというと男子が向いていると思う。
 - デートの費用は、男性が多く払う方が自然だ。
 - 男性が喜怒哀楽を表に出すのは格好悪い。

解 説

いかがでしたか。男女共同参画の視点を考えていただけたでしょうか。なぜ「思う」としたのか、なぜ「思わない」と思ったのか、その理由をじっくり考えてみてください。
 もしかしたら、「男だから」、「女だから」という判断基準に行きつくかもしれません。性別にとらわれず、社会や家庭でその人の能力を発揮するには、そのような判断基準の見直しが必要なのかもしれません。
判断のめやす 一チェックした個数が…
 ・0~3個 理解がある。・4個~6個 やや理解がある。

特集
 あなたらしさ・私らしさ
 ~男女共同参画社会を考える~

男女共同参画社会とは、性別に関係なく、個性や能力を発揮できる社会のこと。言い換えれば、男性は「男らしさ」のよいいを脱ぎ、女性は「女らしさ」の仮面をつけない、女性社会、といえるかもしれません。今月は、「あなたらしさ・私らしさ」と題して、男女共同参画社会や、仕事と生活の両立を考える新しい社会のキーワード「ワークライフバランス」について考えます。



↑(株)マリーナ電子で働く皆さん。
 ↓日本のハイテクを部品レベルで支えています。

**男女が一緒になって
 「いろいろなことを
 考えたり、決める」**
 市民は男女ほぼ半分ずつ。それなのに市のことを決める市議会や各種委員

今回のように「男性はこうあるべき」というような「社会的な性のありよう」のことを「ジェンダー」と表現することがあります。「ジェンダー」という言葉そのものは善悪はありません、そのことが直ちに悪い、ということはありません。ですが、こうした「先入観」が、男女共同参画社会の妨げとなったり、知らず知らずのうちに誰かを傷つけることでもありますので、注意が必要でしょう。



「保育所」と言う「女性の職場」という印象がありますが、男性の保育士もいらっしゃいます。南有馬町大江保育所に勤務する中村大輔さん。子どもから慕われるのはもちろん、保護者や先生方からも「大ちゃん先生」と、大人気です。

は、男性が多いのはなんだか変と感じている人もいます。
 南島原市では、各種委員の女性の登用や各種団体の運営に女性が積極的に参加することを応援しています。現在979人の委員のうち100人(20年10月1日現在)が女性となっています。今回、女性初の教育委員、隈部浩美さんにお話をお聞きしましたので、ご覧ください。(次のページ)

出前講座受付中



出前講座は随時受け付けています。「男女共同参画についてもう少し知りたい」という人は、お気軽にお声かけください。

人権・男女共同参画室では、『身近な幸せ発見講座』と題して、男女共同参画に関する「市政出前講座」を行っています。男女共同参画の課題は、性別や世代によってさまざま。子育て、介護、ワークライフバランス、DVなどなど、言葉では堅苦しい『男女共同参画』を、わかりやすく、もっと身近なこととして考えてもらいたい、そんな思いで市内を回っています。
 5月15日(金)は、加津佐町の松原会館で出前講座を実施。寸劇をもとに、男女共同参画について意見交換などを行いました。参加者からは、「男性も家事をするということも男女共同参画だが、仲良くいたわりあうことも男女共同参画で、それが幸せにつながると思う」という声寄せられました。



両親学級に参加した石橋さん夫婦。「育児は夫婦で！」という考え方も定着しつつあります。両親学級の詳細は今月号23ページをご覧ください。